

平成 22 年 6 月 11 日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19720150
 研究課題名（和文） 日本人英語学習者の特徴的誤りを修正するためのオンライン教材の開発
 研究課題名（英文） Development of an Online Learning Material for Correcting
 Characteristic Errors of Japanese Learners of English
 研究代表者
 岡裏 佳幸 (OKAURA YOSHIYUKI)
 福岡工業大学・社会環境学部・准教授
 研究者番号：00389397

研究成果の概要（和文）：本研究課題における研究目的は、日本人英語学習者の特徴的な文法の誤りを検証し、それらの誤りを効果的に修正するためのオンライン英語学習教材を開発することである。日本人大学生を対象に実施した診断テストによって、特に基本動詞の使用に見られる日本人英語学習者の特徴的な文法の誤りが明らかになった。これに基づいて、誤りを修正し、円滑なコミュニケーションを行うために必要な文法知識を習得できるオンライン英語学習教材を開発した。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research project is to consider characteristic grammatical errors of Japanese learners of English and to develop an online learning material for effectively correcting such characteristic grammatical errors. Through the diagnostic tests, some of the characteristic grammatical errors of Japanese learners of English came to light especially concerning the usages of basic verbs. Based on the analysis of the results of the diagnostic tests, we developed an online learning material of English for effectively correcting such errors and making it possible for learners to better communicate in English.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|---------|--------|---------|
| 2007年度 | 500,000 | 0 | 500,000 |
| 2008年度 | 100,000 | 30,000 | 130,000 |
| 2009年度 | 100,000 | 30,000 | 130,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 700,000 | 60,000 | 760,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：日本人英語学習者、Asian Englishes、オンライン英語学習教材

1. 研究開始当初の背景

英語には様々な変種が存在し、その中でも、

シンガポール、インド、マレーシアなどのアジア諸国で使用される英語は、Asian

Englishes と呼ばれる。日本国内における Asian Englishes の研究は、本名信行氏（青山学院大学名誉教授）らによって進められ、各変種間の特徴が明らかになりつつある。もちろん、日本人の英語（Japanese English）に関する研究も行われているが、概して、日本人の特徴的な語彙、文法、発音などの誤りを指摘しただけのものや、非文法的な表現でも偶然通じたという理由だけで、標準英語（Standard English）からの逸脱を容認するものが多い。

アジアにおいて、日本人の TOEIC (Test of English for International Communication) のスコアが低いことや、コミュニケーション能力が欠如していることなどから判断して、日本人は英語が苦手である、という意見が大半を占めている。しかしながら、明治時代を代表する英語の達人である岡倉覚三らの例から、適切な訓練を積み、日本人でも十分に通用する英語を駆使できるようになることも周知の事実である。このことを念頭において、比較的誤りを犯しやすい文法項目に関する知識を習得でき、誤りを修正することができる教材を作成することによって、より正確で誤りの少ない英語を使いこなすことが可能であると考えた。そこで、独自の診断テスト (diagnostic test) を作成し、得られた結果に基づいて、日本人英語学習者の特徴的誤りを修正し、基本動詞の習得に重点を置いたオンライン英語学習教材を開発しようという着想に至った。

2. 研究の目的

申請時における本研究課題の研究目的は、日本人英語学習者の特徴的な文法上の誤りを明らかにすることと、その分析結果に基づいて、特徴的な誤りを修正し、円滑なコミュニケーションに必要な文法知識を習得する

ことのできるオンライン英語学習教材を開発すること、であった。

まず、第 1 の研究目的を達成するために、診断テストを作成した。本研究では、円滑なコミュニケーションを妨げるような日本人英語学習者の誤りを調査することに主眼を置いていた。それゆえ、診断テストの構成を検討する際に、以下の 3 点に留意した。第 1 に、コミュニケーションにおいて重要な役割を演じる基本動詞に関する問題を多数作成した。概ね、日本の中学校の英語教育において、履修するレベルの動詞である。第 2 として、中学校、高等学校で履修する英文法の中でも、基本的な項目に重点を置いた。具体的には、自動詞と他動詞の区別、過去形と現在完了の区別、be 動詞などである。第 3 に、診断テストの形式として、多肢選択形式空欄補充問題と整序英作文問題を採用した。特に、被験者である学習者が英語を苦手とする場合に、複雑な問題形式を採用することは、当て推量による解答を助長し、正確な結果が得られない可能性があると考えたからである。

次に、第 2 の研究目的は、診断テストの結果分析により明らかとなった、日本人英語学習者の特徴的な文法上の誤りを修正するためのオンライン英語学習教材を開発することであった。診断テストの結果、とりわけ基本動詞、自動詞と他動詞、現在分詞と過去分詞、過去形と現在完了、よく似た意味を持つ動詞、接続詞、関係詞などの項目において、誤答の確率が高いことが判明した。それゆえ、オンライン英語学習教材の開発において、これらの学習項目を中心に扱うこととした。

3. 研究の方法

上述のとおり、日本人英語学習者の特徴的誤りを把握するための診断テストでは、基本動詞の用法や中学校、高等学校で履修する項

目を中心として扱った。具体的には、say、speak、talk、tell などの基本伝達動詞、be 動詞、不定詞と動名詞の区別、自動詞と他動詞の区別、過去形と現在完了の区別、時間を表す副詞節、よく似た形の形容詞、よく似た意味の動詞、関係詞などである。テストの作成に際し、主に欧米で発行された文法書や辞書、文部科学省検定済教科書などを参考データとして、診断テストに使用する英文を選定・作成した。選定・作成した英文をもとに、多肢選択形式空欄補充問題と整序英作文問題の2形式による診断テストが完成した。

診断テストの実施方法については、当初、e-mail やホームページ上での実施によりデータを収集する予定であったが、制限時間を設定したり、解答時の参考書などの使用を制限したりするなど、受験環境を統一する必要があることから、大学生を対象として、教室内でのみ実施することとした。

診断テスト実施後、当て推量によって正答率が高くなっていると思われる設問に関しては、再度、同じ診断テストを異なる対象者に実施した。診断テストの結果分析により、基本動詞、自動詞と他動詞、現在分詞と過去分詞、過去形と現在完了、よく似た意味を持つ動詞、接続詞、関係詞などの項目に、誤りが集中していることが判明した。

診断テストの分析結果に基づいて、オンライン英語学習教材の開発に取り掛かった。誤りが集中していた文法項目を中心に、とりわけコミュニケーションの際に重要な役割を演じる基本動詞の問題を扱うこととした。オンライン英語学習教材全体の構成は、問題ページ、解答ページ、解説ページであり、この流れで学習できる。また、解説ページによる学習効果を高める目的で、複数回、類題に触れることができるよう、教材全体の流れを工夫した。

4. 研究成果

本研究の結果、診断テストによって、基本伝達動詞、be 動詞、不定詞と動名詞の区別、自動詞と他動詞の区別、関係詞などが、日本人英語学習者の特徴的誤りであることが明らかとなった。高度で複雑な文法項目ではなく、むしろ中学校や高等学校で履修する文法項目のなかでも、基本的な項目において、誤りが多く見受けられた。本研究課題の最大の目的は、日本人英語学習者の特徴的誤りを指摘するだけでなく、これらを修正し、より正確で誤りの少ない英語を習得する機会を提供することにある。したがって、診断テストの結果分析に基づいて、これらの誤りを修正するためのオンライン英語学習教材を開発した。本教材の特徴として、解説ページにおける学習効果を高めるために、必ず複数問の類題が含まれている点が挙げられる。すなわち、解説ページの内容を十分に理解できているかどうかを確認するために、これと関連のある問題を繰り返し学習できるように配慮した。また、オンライン英語学習教材の問題形式として、多肢選択形式空欄補充問題を採用した。各選択肢が妥当であるかどうかを、十分に検証した上で、4肢選択問題を作成した。本教材による学習によって、上述のような日本人英語学習者に特徴的な文法の誤りを回避することが可能となる。

しかしながら、本研究課題を遂行する過程において、異なる問題形式を採用した診断テストを使用した場合、新たに日本人英語学習者の特徴的誤りが浮き彫りになる可能性も考えられる。さらに、他のアジア諸国の英語学習者の特徴的誤りを分析し、日本人英語学習者の特徴的誤りと比較・検証する必要がある。それゆえ、本研究課題の成果を発展させ、「日本・韓国・中国の国際語としての英語学習者の特徴的文法と理解度に関する比

較研究」(課題番号: 22720227、平成22年度～平成25年度)において、ライティングやスピーキングのデータ分析により、文法上の特徴を明らかにしたいと考えている。

なお、本研究課題における研究成果であるオンライン英語学習教材を、平成22年夏頃より公開する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

1. Yoshiyuki OKAURA, “Grammatical Characteristics of Good 50-word Essays by Japanese Students of English: Optimal Relevance through the Formation of Explicatures,” *Intercultural Communication Studies*, No. 2, Vol. 2, 214-228, 2009 年, 査読有.
2. Yoshiyuki OKAURA, “Relevance-theoretic Approach to Characteristic Grammatical Constructions and Usages in 50-word English Essays by Japanese Students,” *Asian Englishes*, No. 11, Vol. 2, 46-63, 2009 年, 査読有.
3. Yoshiyuki OKAURA, “Relevance-theoretic Approach to Some Characteristics of ESS Works in Japan,” *The Intercultural Forum*, No. 1, Vol. 2 ([http://comm.louisville.edu/iic/ICF1\(2\)2008.html](http://comm.louisville.edu/iic/ICF1(2)2008.html)), 2008 年, 査読有.
4. 岡裏佳幸, 「ESS 作品の特徴に関する一考察—関連性理論の観点から—」, *IRICE PLAZA*, No. 18, 23-31, 2008 年, 査読有.
他 1 件

[学会発表] (計 7 件)

1. Yoshiyuki OKAURA, “The Characteristic Grammatical Constructions and Usages of Good 50-word Essays by Japanese Junior and Senior High School Students of English,” The 8th Annual Hawaii International Conference on Education, January 9, 2010, Marriott Hotel Waikiki Resort and Spa, USA.
2. Yoshiyuki OKAURA, “Characteristic Grammatical Constructions and Usages in 50-word Essays by L2 Japanese Junior and Senior High School Students,” International Association for Intercultural Communication Studies 2009 Conference, September 20, 2009, Kumamoto Gakuen University, Japan.
3. Yoshiyuki OKAURA, “Characteristic Grammar and Usage in 50-word Essays by Japanese University and High School Students,” International Association for Intercultural Communication Studies 2008 Conference, November 12, 2008, Marriott Hotel Louisville, USA.
4. 岡裏佳幸, 「ESSC 作品における特徴的な文法・語法に関する一考察」, 日本「アジア英語」学会第23回全国大会, 2008年7月5日, 金沢学院大学.
5. Yoshiyuki OKAURA, “Characteristic Grammar and Usage of ESS Works in Japan,” NATE@FEELTA 2008 Conference, June 26, 2008, Far Eastern National University, Russia.
他 2 件

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.fit.ac.jp/%7Eokaura/index.htm>

において、本研究課題における研究成果であるオンライン英語学習教材を、平成 22 年夏頃より公開する予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡裏 佳幸 (OKAURA YOSHIYUKI)

福岡工業大学・社会環境学部・准教授

研究者番号：00389397